

柳瀬ダムにおける広報活動の積極的な取組について

吉野川ダム統合管理事務所 柳瀬ダム管理支所管理第一係 岡田 泰樹
吉野川ダム統合管理事務所 柳瀬ダム管理支所管理第一係長 平山 誠

一般市民にダムの目的や役割を幅広く広める事を目的に、平成18年より全国のダム管理所でダムカードの配布が始まった。しかし、柳瀬ダムへの道程は非常に険しい為、ダムへの来訪者が少ない状況である。そこで平成30年度から、四国中央市に在住する小学生を対象に、ダムの必要性を広報するために、ダム見学会を実施した。また、開催の周知方法は、市の教育委員会やケーブルテレビ等も活用し幅広く行った。その他、定期的な実施される湖水祭等で、視覚的にダムの必要性をイメージできるよう展示するブースを設け、積極的な広報を行った。

本稿では、平成30年度に実施した柳瀬ダムにおける広報活動を報告するものである。

キーワード 広報

1. はじめに

柳瀬ダムは、吉野川水系銅山川中流に位置し、洪水調節、かんがい、水道・工業用水の供給及び発電を目的として建設された。ダムは昭和29年に完成し、平成31年で65年が経過しており、国内における国管理の多目的ダムでは最も古いダムである(図-1参照)。

また、柳瀬ダムは新宮ダムと共に四国中央市へ工業用水、農業用水及び水道用水の供給を行い、四国中央市では13年連続全国一の紙製品出荷額を誇るなど、地域の社会、経済活動に大きな役割を果たしている。

しかしながら、柳瀬ダムに通じる国道319号は非常に険しい為、ダムへの来訪者も少ないことから、ダムの目的や役割を広報する機会が少ない状況であった。そこで、平成30年度に四国中央市の小学生を対象にダム見学会を実施した他、様々なイベント活動に参加する等、積極的な広報活動を行った。



図-1 柳瀬ダム位置図

2. ダム見学会の実施について

ダムの必要性を広報する事を目的とし、ダム見学会を実施した。平成30年度には堤体内やダム放流設備等の施設を回る施設見学会と柳瀬ダムの工事見学会の2回に分けて実施した。

本章では、各見学会について報告する。

(1) ダム見学会

a) 概要

実施期間 平成30年8月6日(月)～11日(土)
実施回数 1日あたり2回開催、延べ12回開催
参加人数 139名(小学生71名、保護者68名)

b) 周知方法

ダム見学会は、小学生が参加しやすい夏休みを期間として設定した。周知方法は、チラシを四国中央市内の小学校へ配布した(図-2参照)。その他にも吉野川みずべ情報誌「川活」へ掲載し、また、四国中央市内のケーブルテレビで告知を行った。



図-2 配布したチラシ

c) 開催方法

柳瀬ダムは前述したとおり、昭和29年に完成した古いダムであることから、エレベータ等の昇降設備が無く、見学には不向きなダムである。

そこで、学年別に見学コースを設け、参加者に負担をかけないように工夫を行った。各コース内容については、次の通り。

・見学コース 1（所要時間約45分）

操作室にてダムの目的、役割を説明し、その後ダム天端で施設見学を実施した。移動距離が短い為、全学年を対象とした（写真-1参照）。



写真-1 見学コース 1

・見学コース 2（所要時間約90分）

見学コース 1 に加え、ダム堤体内を案内した。重力式コンクリートダムの紹介、監査廊内にて基礎排水孔を使用した点検方法、取水設備の紹介を実施した。堤体内の階段が急であり、昇降設備も無いことから対象学年を高学年に設定した（写真-2参照）。



写真-2 見学コース 2

・見学コース 3（所要時間約90分）

見学コース 1 に加え、巡視船に乗船しダム放流設備、取水設備を間近で案内した。その他にもダム湖の水質や自然環境の説明を実施した（写真-3参照）。



写真-3 見学コース 3

d) 結果

ダム見学の参加者に対してアンケートを実施した結果、次年度以降も実施してほしいという意見を多く頂いた。また、見学コース 2 への参加者は、所要時間中の殆どが徒歩になるため、疲れたという意見が多かった。また、見学コース 3 については、巡視

船の艘数や1艘当たりの定員の関係上、順番待ちとなり、中には退屈そうにされる方も見受けられた。

以上の課題を踏まえ、次回の見学会開催時には所要時間を短縮する等、コースの見直し等の解決策を検討している（図-3、図-4参照）。

その他、主な意見は次の通り。

- ・ダム見学は初めてだったが、もっと市民にアピールすると良いと思う（保護者より）。
- ・ダム内の見学がとても楽しかった。職員さん達はあんなにしんどい階段を毎回利用していると聞いたので、凄いと思った（小学5年生より）。
- ・階段が凄く過酷だった（小学5年生より）。
- ・ボートに乗れて良かったです（小学4年生より）。
- ・初めての見学でいろいろ分かってとても良かったと思います。また機会があればダムの見学をしたいなと思います（小学4年生より）。

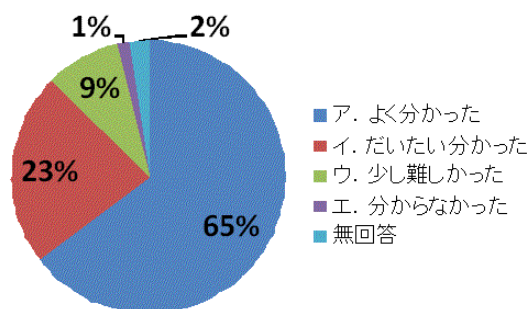


図-3 アンケート結果（柳瀬ダムの役割について）

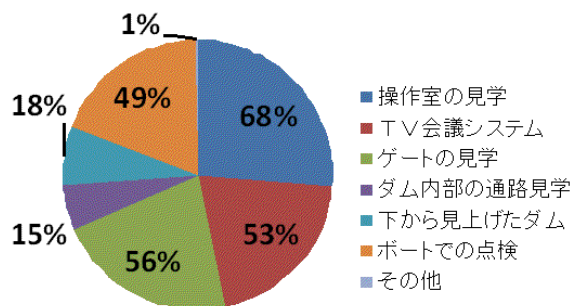


図-4 アンケート結果（良かった点、複数回答可）

(2) 予備ゲート工事見学会

柳瀬ダムの放流設備である Crest Gate は、越流頂から上位標高の水を貯水するための利水設備を兼ねているが、柳瀬ダムでは一般的な管理ダムにあるゲート点検用の「予備ゲート」が設置されていないため、点検はダム水位が低下した時しか実施出来ず、計画的にゲートの維持管理が出来ない事が長年の課題であった。そこで、平成28年度から令和2年度にかけて、「予備ゲート新設事業」を立ち上げ、工事を実施している所である。このような事例は全国的にも珍しいことから、地元の小学生を対象に工事見学会を実施した。

a) 概要

実施期間 平成31年2月26日（火）
実施回数 1回
参加人数 59名（小学生56名、先生3名）

b) 周知方法

地元の小学校への訪問や吉野川みずべ情報誌「川活」への掲載、また、フェイスブックを利用した(図-5参照)。



図-5 現場見学会情報(フェイスブックより)

c) 開催方法

前章で述べたダム見学会コース1に加え、予備ゲート新設工事の受注者に協力頂き、工事現場にて概要を説明した(写真-4参照)。



写真-4 工事見学会の様子

d) 結果

実施日には報道機関も訪れ、後日新聞に掲載された。工事見学会の参加者に対して感想を聞いたところ、ダム目的や役割を理解できたという意見を多く頂いた。反省点としては、実施期間が1日であった為、前章のダム見学会と比べ参加人数が少なかった。工事は令和2年度まで施工予定である為、次回の工事見学会では、実施期間を延長したいと考える。

その他、主な感想は次の通り。

- ・ダムは水を貯める役割だけではなく、自分たちの生活にも水が使われている事を知った。
- ・4年生のダム学習に今回教えてもらった事を生かしたい。
- ・ダムの仕組みが分かりました。64年前に出来ていることに驚きました。

3. その他のイベントについて

柳瀬ダム周辺では、年間を通じて数多くのイベントが開催されている。

本章ではそれらのイベントに積極的に参加し、パネル展示等を通じて柳瀬ダムをPRした事例を報告する。

(1) 参加した主なイベントについて

次の3つのイベントについて広報活動を行った。

- ・湖水祭り : 平成30年8月4日(土)
- ・感謝祭(夏) : 平成30年8月19日(日)
- ・感謝祭(秋) : 平成30年11月4日(日)

(2) イベントでの工夫

パネルの展示では、柳瀬ダムの目的や役割を踏まえ、四季の写真を用いることで、柳瀬ダムに興味を持ってもらえるように工夫した(図-6参照)。その他、柳瀬ダムをデザインしたペーパークラフトを来場者が作成できるブースの設置(図-7参照)、柳瀬ダムに関連したクイズ等を実施した。



図-6 作成したパネル



図-7 ペーパークラフトの様子

4. その他の活動について

イベント以外の広報活動として、情報誌やフェイスブック等を利用し、柳瀬ダムを紹介した。

本章では、その他の活動について報告する。

(1) 吉野川みずべ情報誌「川活」について

吉野川ダム統合管理事務所では毎年4回、みずべ情報誌として「川活」を発刊しており、吉野川周辺のサービスエリアや道の駅等に配布している。その資料の中で、柳瀬ダム周辺の施設紹介や、前述で述べたイベント情報の紹介、工事紹介等を掲載してき

た（図-8参照）。



図-8 みずべ情報誌「川活」より抜粋

(2) 周辺施設の整備について

ダム周辺の土地及び施設について、一般の方が安全に利用できることを目的に、四国中央市と合同で安全利用点検を平成30年5月1日（火）に実施した。

点検の結果、金砂湖畔公園に設置されているベンチの板が老朽化して割れていたり、ダム湖への侵入を防ぐロープがたんでいる状況だった為、早急に維持工事で対応し、危険性を排除した。点検時には報道機関も訪れ、後日新聞やテレビにて取り上げられた。

(3) ダムカードの配布について

近年のダムカード配布状況を表-1に示す。平成31年2月24日（日）以降に天皇陛下御在位三十年記念ダムカードを配布していることもあり（図-9参照）、近日の配布枚数は増加傾向にあり十分な広報活動の一環となっている。

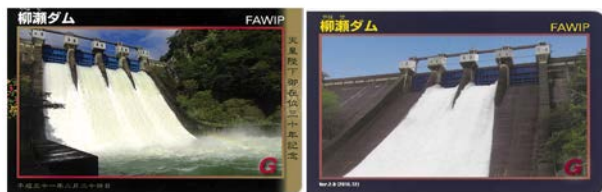


図-9 ダムカード（左天皇陛下御在位三十年記念ダムカード）

5. 今後の活動について

ダム湖利用者数の増加を目標に、ダムカードフレームを製作した（図-10参照）。

今後、ダムへの来訪者に対し無料で貸し出しを検討しており、前章で述べた「川活」やフェイスブック等を活用し、認知度を高めたいと考える。



図-10 ダムカードフレーム

6. おわりに

これまで、求めに応じて見学会の開催等をしてきた受け身的な広報から、こちらから見学会等を開催して積極的に広報を仕掛ける戦略的広報に切り替えたことにより、多くの参加があったと同時に、アンケート結果のとおりより深く柳瀬ダムについての理解が深められた。また見学会等の開催にあたって集中的に準備・段取りを行えたことにより、職員の業務効率化にも繋がった。しかし、見学会では30分程歩き続けなければならないコースがあり、参加者から辛かった等の意見もあったことから、コースの見直しが今後の課題である。また、柳瀬ダムを訪れるための道程が分かりずらく、途中で迷った方や問い合わせをされた方が多く見られた為、「川活」やフェイスブック等を利用し、柳瀬ダムへ訪問するための詳細なルートを掲載したいと考える。

今後は、ダムの役割を紹介するだけに留まらず、ダムを公共施設として地域の財産と位置づけて、観光を通じた地域振興に資するインフラ活動の取り組みに発展していきたい。

表-1 ダムカード配布状況

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間合計
平成27年	33	31	19	70	86	38	32	257	103	62	78	46	855
平成28年	53	52	57	98	133	50	108	240	91	71	85	79	1,117
平成29年	45	44	66	121	171	101	135	198	95	74	111	58	1,219
平成30年	42	46	60	123	145	95	55	270	50	95	102	69	1,152
平成31年	42	176(140)	469(501)	384(394)	623(621)								1,694(1,656)

* 括弧は天皇陛下御在位三十年記念ダムカードの配布枚数を示す。